



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

暗号解読 上・下

著者名	サイモン・シン	発行年	2007年
出版社名	新潮文庫	ページ数	636ページ
値段	629円	ISBN	978-4102159729
コメント	つくる快感。解く快感。あなたは、どちら側の人間？ おなじみ踊る人形から始まって、鍵を独立宣言に隠したり、エニグマしたり、ナバホ族したり、アリスとボブの公開鍵に、今のはやはり量子暗号。 いやもう、人間ってほんと、カクシゴトが好きなんだなあ、とそのために積み上げられた膨大な努力と叡智の大山脈に惚れ惚れ。あきれつつ縦走ください。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
つきもち ☆☆☆☆	途中からですがなかなかはまりました。もうちょっと読みたかったけど、僕には次の本が待っている・・・（笑） 戦争って最新兵器の差かと思ったけどこういった暗号でも勝ち負けに大きく影響するとは思わなかった。ナヴァホ族は最初劣等な条件だったのによくアメリカに忠誠したなあ后感心してしまった。			
	下9-28	19P (40分)		2010/02/13 00:31:14
あ、あめふと2号 ☆☆☆☆	この本はちいさなトピックの集まりで、 暗号がどのように進化してきたかというのが書かれている。 自分は情報工学科なので(それ以前に自分で暗号を作るのが好きだったので)暗号にはそこそこ興味はあってこの本を読もうと思ったので共感を持って読む事ができた。			
	1-100	100P (100分)		2010/02/11 14:10:09
trick ☆☆☆☆☆	暗号が解きたくて。 読む前にまず巻末の暗号に取りかかったところ1と2だけ解けてその後挫折した。 公開鍵暗号の項でmodの話がこんがらがりそうになり、脳みそ溶けてるなーと感じた。本は全編おもしろい。理系脳w			
	下だいたいぜんぶ	250P (180分)	巻末の暗号	2010/02/01 01:42:08
	公開鍵暗号の部分だけ読みました。 インターネット上に飛び交う個人情報が安全に守られているなんてことが本当にいえるのでしょうか？ただ「なんとなく安全だろう」では理工系大学生として恥ずかしいことだと思います。			

まじ ☆☆☆☆	これからの組織はネット上での情報の管理というのは社会的義務であり、社会的信頼のひとつのものさしになるので情報系の勉強をする意義は大きくあると感じました。 理系の血がさわぐ一冊かも。		
	下184-227	44P (50分)	2010/01/12 21:32:44

#30 ☆☆☆	暗号機エニグマ。この暗号機のアイデアにも感心するし、これを解読しようとする人の執念・努力にも驚く。気が狂ってる。 本書だけだと、暗号自体に関する描写が多い分、戦争において暗号がどれほど重要な位置を占めていたがわかりにくい。ため、映画「エニグマ」も見てみると良いかも。実際にどのように暗号解読が行われていたかもわかる。映画自体はそれほど面白くないが。 ほかにも原始的なものから理解の範疇を超えたハイテクなものまで、様々な暗号と仕組みが解説されているが、正直濫読には向かかんかな。		
	上11-42 75-99 229-282	108P (60分)	2010/01/12 12:39:42

うろくた ☆☆☆☆☆	暗号理論の解説です。 ただの解説じゃなく、物語風に語っているところが非常に面白い。 フェルマーの最終定理も面白かったですが、こちらも最高でした。 もう理系必読ですよ。これを読んで面白く感じないなら理系ではありません。 さて内容について。 この本を読んで学べたことは、物事の見方を変えることの重要性である。暗号解読は常に、視点の切り替えがキーワードである。 例えば換字式暗号（1文字ずらすだけの暗号等）は、どのように換字しているかを考えるのではなく、文章に現れる文字の『頻度』を分析して類推する。違ったアプローチから物事を考える事で、解が見えてくるのである。 それと、個人的に感動した『公開鍵暗号』について言及しておきます。 皆さんは、中身を他人に見られたくない荷物を友達に送るとき、鍵をかけて送りますよね？ しかし、荷物に鍵をかけて送ったとしても、友達に鍵を渡さなければ友達は開けられません。では、その鍵はどのように友達に鍵を渡せば安全でしょうか？ この、鍵の受け渡しが必要なくなる魔法のような方法があるのです。 気になったなら、読んでみてください。		
	全部	636P (600分)	下 公開鍵のところ 2009/12/11 23:58:00

ねりな ☆☆☆☆	暗号の作成者と解読者の攻防。現在、そしてこの先、鍵を握るのは「量子論」!? 光子の波動性と粒子性、シュレディンガーの猫、一度しか測定できないジレンマ・・・。 原理に近づける事で、暗号はより堅牢なものにできるという明快さ。とても楽しかったです。暗号解読のノウハウは別に興味ない・・・という方は終章からどうぞ。		
	下228-287	60P (70分)	2009/11/04 11:19:03

日吉本町四丁目南 ☆☆☆☆☆	なんといっても自分で暗号を解けるところが最高！！下巻の巻末には難しい暗号を解くことができるので好きな人にはとてもお勧め。私は時間に負けて、解く事はできなかった・・・ この本を読むなら、まだ初期的で理解し易い暗号を扱っている上巻を読むほうがいいです。それにより国家の秘密文書を探る事ができるなんて素晴らしいと思います。 また、アメリカのとある村に隠された金の財宝を探す話は、ロマンがあふれています。挑戦してみたい気もありますが、著者の言うとおり、余りにも時間が余っている人しかやらない方がいいでしょう・・・		
	上 不明 下184-202 228-249	41P (240分)	2009/10/27 07:18:31

puzdog ☆☆☆☆	作り手と解き手の終わりなき戦い。歴史とともに様々な暗号の解き方、作り方が紹介されている。読んだら暗号が作りたくなるかも。かかしみはむむひわびはむむ！			
	上1-100ページ	100P (100分)		2009/10/14 23:39:57
Caporal ☆☆☆	暗号を作ること、解くこと。これは誰しも興味をもつことではないだろうか？この本では暗号の作り方や解き方だけではなく、それが歴史の中でどのように使われてきたか、いかに暗号が重要であるかということが書いてある。読めば必ずあなたも暗号の問題を解いてみたくなるはず！			
	上P1-99	89P (65分)	76-99	2009/10/13 16:56:56

[TOP](#) 



図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

戦争広告代理店

著者名	高木 徹	発行年	2002年
出版社名	講談社	ページ数	405ページ
値段	619円	ISBN	978-4062750961
コメント	世論は善悪をハッキリ決めたがる。バルカンの小国ボスニアは、アメリカの広告代理店の力を借りて、敵ユーゴスラビアを悪役に仕立てることに成功する。ほんとうの悪者はいったい誰？		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
アメフト3号 ☆☆☆	情報社会の中で、国と国との紛争で、どちらがいけないのかまで、大国を味方につけることが重要になり、その為にだったら情報操作もしてしまうと言う実態があることに驚きました。一概にニュースを信じていいのか疑いたくなります。			
	14-65	52P (30分)	特になし	2009/12/03 14:33:58
アルフ ☆☆☆☆	現代では双方が自分たちの正義を主張している戦争は少なくありません。自分たちのほうが正義だと声を大にして叫んだものの勝ちということになるのでしょうか。そこに暗躍するPR会社。実際は暗躍ではなく堂々と活躍してるわけですが、そうとは分かりつつも暗躍と言いたくなってしまうです。			
	全部	405P (180分)	280-317	2009/11/17 00:16:44
ぴよ彦 ☆☆☆☆	ボスニアに雇われたアメリカのPR会社が、ユーゴ紛争に興味のない世論に目を向けさせ、最終的にセルビアを国際社会から追放するまでの顛末がかかれています。どっちが悪いとも言いきれない状況で、セルビアが一方向的に悪者に仕立て上げられていく様子は読んでいてあまり気分のいいものではない。しかし、PR会社の世論誘導のプロとしての辣腕ぶりには脱帽せざるを得ない。			
	全部	405P (240分)	110-115	2009/11/08 16:35:59
ねりな ☆☆☆☆	読み物としてとても面白いです。情報社会、なんて自分も軽く言いますが、プロは違います。子供達のイジメと構造は似てますが。紛争とか戦争とか、やりたい人たちだけでやるシステムにはならないものでしょうか。平和な市民を巻き込まないで。そうなればあとは、そこに大統領・アメリカのPR会社・お茶の間・ノンフィクション作家etc・・・みなさん御参入なさってお揃いでお涙頂戴殺人ショーでもお楽しみください。			
	14-36,110-150,182-235、381-384	122P (150分)		2009/10/27 02:03:04



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

カラシニコフ			
著者名	松本仁一	発行年	2008年
出版社名	朝日文庫	ページ数	528ページ
値段	600円	ISBN	978-4022615749
コメント	今、アフリカはどうなっているのか。子供でも扱える銃の普及は、崩壊した社会の暴力を加速する。「植民地のほうが良かった」。第1章「少女兵」の話がつかったら、第3章あたりから。 そして、アフリカメインだった第1部に続き、第2部は南米のコロンビア・パナマへ、アフガニスタンへと飛ぶ。人が人をとても手軽に殺してしまうA K 47という武器は、世界をこんなにも荒廃させてしてしまうのか。		

読者投稿欄				
ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
あ、あめふと 2号 ☆☆☆	アフリカレポートと同じ作者だということではリポート形式(?)であった。カラシニコフという銃の話でゲリラの戦闘の話などが書いてあり、自分とは縁遠い話だったが、これもアフリカレポートをよんだ時のようなリアル感を感じた。			
	二の1-43	43P (30分)		2010/02/14 14:50:41
Caporal ☆☆☆☆	小学校のとき銃器のかっこよさにハマってAK47のモデルガンを買うほどのカラシニコフ好きだったが、その機能性と操作性からとても簡単に人を殺せる非人道的兵器だということがわかった。日本の自衛隊がエアガンに毛のはえたような銃をもってカラシニコフだらけのアフガンで戦えるわけないよね。とも思った。			
		268P (234分)	第二章	2010/02/14 03:27:46
BLUE BLOOD ☆☆☆	「カラシニコフ」聞いたことはあったけどA K 4 7のことだとは知らなかった。「悪魔の銃」の開発者にまでインタビューしてるあたりが衝撃的。			
	の中盤	70P (40分)		2010/01/30 22:05:58
とんべい ☆☆☆☆	私はゲームなどでこのカラシニコフの銃の存在は知っていたのですが、この本を読むことで詳しく知ることがよかった。			
	世界的に数々の内戦や紛争で使われ小さな大量殺戮兵器とまで呼ばれているA K だが、開発者は祖国を守るために単純で使いやすい銃を作っただけだった。 作った当初は祖国で英雄になれるが、年月がたつと自分の知らないところで大量に人を殺している。 こうゆう悲劇が兵器開発者に、広い意味で科学者にあると思った。			

	全部	528P (270分)	の二章	2010/01/22 19:27:14
アメフト3号 ☆☆☆	出だしから壮絶な体験が書かれていて、読み出したら止まらない本です。AK47という銃は、単純で操作も簡単な為に兵士になれる年齢が低下したという。 この本は、個人的にはAK47がもたらした悲劇を垣間見ることができたから良かったが、読んでいると結構落ち込みます。			
	18-58	41P (30分)	特になし	2010/01/20 11:26:55
まじ ☆☆☆☆☆	日本じゃおまわりさんぐらいしか持つてるとこ見たことのない、銃。 でもパキスタンの銃密造の村ダラでは600軒もの銃工房が建ち並び、つくられた銃が世界各地に流れていく。それが当たり前。 警察に禁止されていても男は最低一つは銃を持っていて、そうじゃないと心配で夜も眠れないと笑ってみんなが話す。これも当たり前。 世界平和なんて言葉を簡単に口にははいけないし、世界平和を訴えるにはその前に断固たる決意を持って世界を知る必要があると思いました。			
	146-192	47P (40分)		2010/01/12 21:57:16
ねりな ☆☆☆☆☆	一度世に出てしまった技術は、世界中の人に様々な使われ方をされ続けるのですね。このAK47は武器として恐ろしく優秀であったため、使いたくない人でも使えてしまった。			
	上3-92,232-274	133P (120分)		2009/11/17 11:58:50
アメフト4号 ☆☆☆☆☆	2010年サッカーW杯の開催国ですら信じられない汚職や犯罪、貧困に満ち溢れている。カラシニコフとは全く縁のない自分には重くい話だった。自分の知らないところで起きてる悲惨な現状を知って悲しくなった。			
	全部	528P (240分)		2009/11/16 21:48:50
アルフ ☆☆☆☆☆	ゲームの中でしか銃の存在を知らない男子としてはちょっと憧れたりもしてたカラシニコフ。しかし、その銃が日常的に自分に向けられる国がある。「失敗国家」。 治安が悪いので市民が武装し、余計治安が悪くなる悪循環。抜け出すためには何ができるのだろう。			
	全部	528P (240分)	上18-110	2009/10/27 01:19:55
blue ☆☆☆	失敗国家がキーだと思う。国が独立しても、援助は国民まで届かず 無法地帯化してしまう状況に我々はじゃあどうすればいいのか途方に暮れる。特にアフリカ篇は痛烈すぎます。			
	上18-268, 下15-66,145-288	444P (420分)	上18-65	2009/10/25 00:55:53
hana ☆☆☆☆☆	銃と麻薬の密輸の絡み合い、一部の人がお金をもうける構図、そしてその犠牲になる人々… AK47を調べていくと、その対象は様々な国や組織へと網の目のように広がっていき、この業界の根深さを感じます。 現実を知ることができます。			
	1-121ページ	121P (90分)	51-54	2009/10/19 22:53:41
march ☆☆☆☆☆	同じ地球上で、こんなにも醜いことがおきているんだということがわかる本。自分たちが豊かな暮らしをしている裏側では、こんなことが起きているんだと考えさせられた。			
	1-65	65P (30分)	なし	2009/10/14 13:49:34

ぴよ彦
☆☆☆☆

世界の貧困国に爆発的に広まった自動小銃カラシニコフのお話。内容は重く、時折グロテスクな話もあるので、人を選ぶ本だと思う。

とりわけ悲惨なのはIのアフリカ編で、国の未来を考えない無能な 政府、武装集団の略奪・殺人・誘拐、子供の兵士化、飢餓、貧困、無駄にたくさんあるカラシニコフなど、問題があまりにも多すぎて、問題解決に向けてどこから手をつければいいのかわからない状態だ。

貧困国でのボランティアを考えてる人は、自分の覚悟を確認するためにも読んでおくべきだと思う。

I: 17-62,111-187 II:
103-140

161P (120分)

I: 112-136

2009/10/08 07:25:00

[TOP](#)へ



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

カブールの本屋 –アフガニスタンのある家族の物語

著者名	アスネ・セイエルスタッド	発行年	2005年
出版社名	イースト・プレス	ページ数	356ページ
値段	1,800円	ISBN	978-4872575781
コメント	アフガニスタンの首都カブール。当地ではそこそこ裕福な部類に属する一家庭に女性ジャーナリストが寄寓し、ブルカをかぶった女たちと寝食をともにして、ゆっくりゆっくり気持ちを聞き出した。このまことに稀有な取材を、ていねいに再構成することで、男たちの自負、女たちの忍耐のそれぞれが徐々に焦点を結んでくる。タリバン以後の、この社会における暮らしのありよう、幸せのかたちは？ 13人の家族の世話を一手に引き受け、土埃舞う部屋で黙々とタマネギ炒めをつくる黒い瞳のライラの運命にどうか耳を傾けてください。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
フィクサー ☆☆☆☆	「女は、死と詩で抗議をする」というアフガン詩人の言葉が印象的だった。詩の中で「生まれ変わるなら女より石がいい」と神に願う女の人さえていることはとても強烈だった。男たちが悪いのかというと、そういった詩が象徴するような文化で生まれ育って、その文化しか知らないわけだから、責めるわけもいかないし、責めたところで理解できないだろう。物語に出てくるスルタンという男を、本当にぶん殴ってやりたいと思いつつも、そうしたところでどうなるのか、とか思っちゃって、なんだか難しい気持ちになる。			
	1-150ページくらい	150P (100分)		2010/02/14 01:43:02
アメフト4号 ☆☆☆☆	イスラム社会における女性の扱われ方がリアルに描かれている。男中心の社会において、イスラム女性たちがいかに虐げられているか、そして、どれほど自由が奪われているのか。日本とのギャップに文化の違いをととても感じた。			
	1-100	100P (90分)		2010/01/30 01:20:33
アメフト3号 ☆☆☆☆	17章しか読んでいないが、ここだけを読むと、まだまだ男尊女卑の世界が根強く残っているのだなあとと思う。女は身内以外の男性には姿を見られては行けないなど風習が残っている。また、イスラムの世界では結構惨い刑が普通に行われていることを知った（手首切り落とすとか、石打ちの死刑とか）。。			
	279-316	38P (25分)	17章	2010/01/26 15:16:14
注：80pをサラッと読んだだけの感想です。				
価値観の違いというものは、こうも激しいモノなのかと考えさせられた。				

うろくた ☆☆☆☆☆	我々がいくら人権侵害と主張しても、そもそも『人権の侵害』という言葉も、合理的な西洋の文化から生まれたものであって、場合によってはそれは文化の押し付けに他ならない。 イスラームがこの文化を保つなら、イスラムさん達は我々の文明社会に一切かわらないで欲しいなあ、とすら思う嫌悪を及ぼす内容もたくさんあった。 イスラームと関わりたくねえ・・・ 現実には、彼らが何らかの資源を持っている以上、関わるしかなく、世界的にもグローバル化が進んでいるので、どっかで折り合いをつけるしかないなあ			
	1-81p	81P (80分)	立ち読みするものではない	2010/01/21 15:30:07
えむぼま ☆☆☆☆☆	ある家庭の話が物語として詳細に描かれているのでついひきこまれてしまった。 男尊女卑がゆえのアフガニスタンの女性の強さというものを強く感じさせられた。今日本は家庭の強さというものがなくなっていると思われるが、このカーン家の人々は家庭の芯がしっかりしていて、日本と違い家庭のコミュニティというものをきちんとなしていると思った。			
	11-140	130P (200分)	64-67	2010/01/19 00:31:08
まじ ☆☆☆☆☆	カブールで本屋を営むカーン家を中心としたアフガンの実態が生々しく記されている。 特に女性の完全に制限されていると言っていい恋愛が多く語られているが、女性の悲痛な叫びがとても胸に響いた。 アフガニスタン周辺で女性は外出のときに顔を隠すことや一夫多妻制であることを知ってはいたが、それはその地域の文化であるため女性は納得しているんだと勝手に勘違いしていた自分が恥ずかしくなった。読んで得るものや感じるものが多い一冊だと思います。おススメです			
	1-68、101-122、167-216	140P (150分)	101-122	2009/12/08 09:13:25
ねりな ☆☆☆☆☆	これは文化や伝統だと主張されるかもしれませんが、しかしやはり男性を甘やかせずすぎだと思います。こういったことは内部からは変えにくく、海外からの批判が増えない限り、改善されるのは難しいでしょう。			
	22-28,48-67,118-122,136-148,240-254,368-373	66P (60分)		2009/12/08 09:03:12
hana ☆☆☆☆☆	女性や貧しい人が、「宗教」「しきたり」の名の下に、人権を侵害されているように思えてなりません。確かに、様々な価値観があって当然だとは思いますが。 でも、それがたくさんの人を押さえつけるようなものだったら…?? 例えば、女性にとっての幸せのかたち「結婚」。 結婚する女性は、自らの意思を示さずに家族の勧めに従うのが良いことで、相手の男性の年齢が高い方が経済的にも恵まれて幸せになれるとされています。顔を見せてはいけけないので、最後まで相手の顔も知らない場合が多いそうです。 でもこれは、彼らの社会で、幸せだ、よいことだと「されている」だけで、描かれている彼女たちの姿から考えても、本当に心から幸せに「感じている」こととの間に大きな差があるように感じました。幸せだと思わされている」ようにもみえてしまいます。 あまりの価値観の違いに、愕然としました。 これを知る価値はおおいにあると思います。			
	全部	356P (250分)	21-28,45-61,217-238,279-316	2009/11/07 13:04:12



図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

オバマ大統領就任演説

著者名	DVD版	発行年	2009年
出版社名	ゴマブックス	ページ数	92ページ
値段	1,980円	ISBN	978-4777112623
コメント	まずは、そのあざやかなパフォーマンスを堪能してみる。 つぎに、どんな話題、言葉が選ばれ、どう構成されて、かくもみごとな、エモーショナルな演説になったのかを分析してみる。 そんなふうに二度は楽しみたい逸品です。 私にとっては、くりかえしくりかえし、歴史が参照されることが、やはり印象的でしたね。endured the lash of the whip〜ムチの痛みに耐え〜と黒人の苦難をもほのめかしつつ、Gettysburg(南北戦争) Normandy(二次大戦) Khe Sahn(ヴェトナム)。 演説ラストで語られる建国の苦難はin the coldest of months〜一年でいちばん寒い月〜のできごととして語られ、それがin this winter of our hardship〜我々が直面している困難な冬の時代〜へと重ね合わされ、聴衆たちが立つのも1月の寒い屋外モール。計算しつくされたシンクロぶりは、さすがです。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数 (時間)	立ち読みポイント	投稿時間
Got's ☆☆☆	オバマ大統領のスピーチの内容だけでなく、ボディーアクションも含めてみたかった。やはり、プレゼン力を鍛えるという目的の授業ならば、もう少し体の使い方の話も学びたかったなあと。			
	1-39	39P (30分)		2010/02/14 23:45:27
Caporal ☆☆☆☆	平和がどうこうというか、私はオバマ大統領の英語のわかりやすさにすごく感動した。なのでヒアリングの勉強としてもおすすめではないかと思います。			
	1~39	39P (15分)	音を聞いてください	2010/02/14 03:16:49
名無し ☆☆☆☆	アメリカって日本より勢いとかノリとか雰囲気とかカリスマ性が重要なのかなと感じた。特にカリスマ性。そして、壮大なビジョンとか夢物語を、本気で信じている（またはそのように見せられる）ことが必要なのかも。			
	1-63	63P (50分)		2010/02/11 02:21:42
BLUE BLOOD ☆☆☆☆	英語のレベル的に教材としてもつかえるし、あれほど話題になったスピーチです。一度は耳に流しておきたいところです。			
	全部	92P (60分)	D V D	2010/01/30 22:12:47

くらしく ☆☆☆	まず驚いたのがオバマのその経歴。 盛衰の激しさや、スポーツを通じて道を拓くだとかこの空想の主人公が分からない。 連邦議会も数年しか経験していないというのも、若いのだからそりゃ当然だったのだが、全く知らなかった。 なるべくしてなった人物なのだな、と改めて思った。 演説の内容としては、やはり日本との大きな違いを感じる。 壮大にして曖昧。 唯一具体的だったのが周囲の人物への感謝や、106歳の投票者の話で、いまいちピンと来なかった。 読んだだけで聞いてはいないので、その演説力を実感していないだけかもしれないが。			
	1-63ページ	63P (30分)	4-5ページ	2010/01/12 04:01:59

フィクサー ☆☆☆☆	日本でこんな演説したら逆に寒い空気になりそうだなと思うような、アメリカという国のスケールを感じさせるスピーチだった。 同時に独善的な市民ナショナリズムも少し感じた、ような気がする。			
	全部	92P (50分)		2010/01/02 05:29:15

ぶるー ☆☆☆☆	文章を読んだだけで、すごくインパクトのある文章で、いろいろ例えを交えながらもわかりやすかったです。 文章もそうですが、アメリカという大国を率いるプレゼン力って…とてつもないなぁと感動しました。			
	始め-p39	39P (30分)	大統領就任演説	2009/12/15 09:35:23

march ☆☆☆☆	DVDを見た後、英文で読みました。演説の内容はモチロンのこと、言葉遣いの鮮やかさには感服です。とにかく圧倒されます。			
	1-92	92P (240分)	なし	2009/12/08 19:22:05

日吉本町四丁目南 ☆☆☆	時間の流れに沿って、昔の演説から順に読み進めました。 慈悲の精神に語りかける感じで、ところどころで、宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」を読んでいるような気分にもなりました。 また、「我々アメリカ」とか「共和党員でなく民主党員でもなくアメリカ」といった、オバマの愛国心を感じとれました。しかし、まだアメリカ第一主義のようなものも残っているかと・・・ 確かに説得力のある文章でしたが、実際に聞いたらどれほどに感じるのか、非常に気になりました。			
	全部のうちの奇数ページ	46P (30分)	就任演説	2009/12/02 01:26:13

iwatobi-penguin ☆☆☆☆☆	大統領演説だけあって非常に主張が明快で読みやすいです。英語のレベルもちょうどいいくらいで英語の勉強もしたい人にもお勧めです。			
	1-95	95P (120分)		2009/11/04 17:26:43

ぶりぶり ☆☆☆	DVDがなかったので文章だけよんだのですがそれでもオバマ大統領の就任演説や勝利演説での力強いメッセージが伝わってくる。 映像があればもっと迫力があったのだと思う。			
	1-64ページ	64P (50分)	特になし	2009/11/04 12:37:56

--	--	--	--	--

blue
☆☆☆☆

就任演説の構成がこんなに素晴らしいとは思いませんでした。今起こっている危機的状況を具体的に上げつつ新しい時代をどう切り開いていくのか、先代からの遺産を受け継ぎ後世の子供たちに希望を残そうという勢いは見事です。英語も聞きやすく何回も聞く気になります。

3-95	92P (200分)		2009/10/19 01:23:08
------	------------	--	---------------------

[TOP](#) ^



図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

プロフィール
覧

自己プロフィール

掲示板

強欲資本主義ウォール街の自爆

著者名	神谷秀樹	発行年	2008年
出版社名	文春新書	ページ数	189ページ
値段	710円	ISBN	978-4166606634
コメント	何が起きてこうなってしまったのか、ウォール街の現場からリポーターがお伝えます、といった趣。カタカナ用語が乱舞するけれど、説明はとても分かりやすい。 何よりも自らも金融ビジネスに携わっている著者が、自分の仕事ポリシーはこうだ、なのに世の趨勢は……とつねに自らを補助線とし、体験を披露しつつの現状分析であるところが地に足が付いた良さ。		

読者投稿欄

ペンネーム お勤め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
だいすけもん ☆☆☆☆	序章だけしか読んでないんですが、わかりやすかったです。 時間があれば、全部読みたかったです。			
	1-24	24P (30分)		2009/12/22 12:42:30

Whatever ☆☆☆☆☆	ハーバード、イエール、将来を担うエリートたちの就職先は、巨大投資銀行。一流の頭脳の使い道は、未来を創る新しい技術やアイデアではなくて、他者をいかに騙し、出しぬき、搾取するかという狂気の資産運用ゲームだった。システムを知悉した彼らに逃げ道は沢山、カラクリは巧妙、どこまでも狡猾に弱者から金を取る。今日の儲けは僕のもの、明日の損は君のもの。 強欲のスパイラルを痛烈に批判する筆者はNY在住の日本人投資銀行家。ITバブル、住宅バブル、そして金融バブル、人々の狂気と札束の舞うウォール街を四半世紀歩いてきた。 日本の資本主義はどうなるのか。筆者は憂う。 「モノ作り」を出来なくなったアメリカ、だから彼らは金融の錬金術に走った。彼らからモノ作りの市場を奪ったのは誰か。日本製のブランドたちである。団塊の世代が品質に心血を注ぎこんだ「Made In Japan」の製品だ。日本はモノ作りの国だ。それでも、僕たちは外銀のエリートたちに憧憬を抱き、拝金主義に傾くのだろうか。 日本に、世界に、資本主義の本来の在り方を問う一冊。 知識の浅い自分でもわかりやすい説明でした。 特に金融系の職業を目指している人にはオススメです。			
	全部	189P (180分)	50-59	2009/12/04 08:54:49

iwatobi-penguin ☆☆☆☆	金融恐慌。人類が幾度となく懲りずに経験してきた問題ですが、この本ではその原因と影響が具体例を使って分かりやすく説明されています。よくテレビなどでサブプライム問題、投資銀行、などといった言葉を聞きますが、いまいちイメージがわかりませんでしたがこの本でだいぶ理解ができたと思います。			
-------------------------	---	--	--	--

	1-135	135P (100分)		2009/11/23 21:59:37
--	-------	-------------	--	---------------------

blue ☆☆	なにをもって成功かという言葉は企業の体質以外でも大切だと感じた。しかし外資の大手投資銀行の収入には驚く。金だけのために、あるいは長期スパンで考えられていないために負の遺産が社会に蔓延している事は本当に憤りを感じます。優秀な人こそ、やはり国の役に立とうと考えていただきたい。			
	全部	206P (180分)	第三章	2009/11/07 12:25:40

びよ彦 ☆☆☆	業界用語がやたら出てくるので、ある程度の金融の知識がないと内容を完璧に理解するのは難しい。しかし知識がなくとも、いかにウォール街の投資銀行家たちが強欲と傲慢に満ち溢れているかは十分に伝わってくる。 「今日の益は僕のもの、明日の損は君のもの」という言葉が度々出てくるが、この腐りきった業界を的確に表していると思う。			
	10-143	134P (100分)	50-53	2009/10/12 15:02:35

[TOP](#) 



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

ルポ 貧困大国アメリカ			
著者名	堤 未果	発行年	2008年
出版社名	岩波新書	ページ数	200ページ
値段	700円	ISBN	978-400431126
コメント	サブプライムに不法移民、所得格差が拡大するいっぽうなのは国家がそう仕向けてるから。ワーキングプアはイラクで傭兵と化す。テロより怖い民営化。 ばんばんばんと立て続けに見せられて、ここまでヒドいのか、と唖然。ちょっと片方の局面を強調しすぎだとは思ふものの、そのぶん主張はわかりやすい。それがベストセラー街道幕進の理由か。 そして、これが日本でベストセラーになるのは、明日は我が身の危機意識か、それとも、やあいアメリカン・ドリームも崩壊してるんだと野次馬的いい気分になれるからか。 などなど、いろんな読みを引き受けられるパワフルな話題本。		

読者投稿欄				
ペンネーム お勤め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
うろくた ☆☆☆☆	『怖い絵』よりよっぽど怖い本だったと思う。 上田先生の『かけがえのない人間』を読んだあとと読んだので、なんとなく反資本主義の立場から読んでしまった。 やはり競争をして、負けたらそれは努力が足りなかったのだから、どうなっても仕方ないという考えた方は問題があるのだろうか。 かと言って、社会主義が成立しないことは歴史が証明している。 難しい問題だと思う。 医療費の問題は驚愕だった。（ちょっと誇張しすぎてる気もするが）			
	1-140	140P (30分)	特になし	2010/02/15 03:09:59
#30 ☆☆☆	旅行でハワイにいるときに読んだが、なんかアメリカ人を見る目が変わってしまった。太っている人たちがみじめにかわいそうに見えてくるという… とはいっても、ハワイに旅行に来ているようなアメリカ人は成功組の人たちで、本当の貧困の苦しみを受けている人たちは、外からでは決して見えない奥底で生活をしているんだろう。なんか悲しい国だ…			
	全部	200P (180分)		2010/02/14 09:57:08
ソロコフ ☆☆☆☆☆	このようなアメリカの現実、というか世界の現実は知りませんでした。もちろんそこには日本も含まれている。 読み始めたころは新自由主義というものの恐ろしさを感じつつも、それと比べ日本は素晴らしい国なのだなあなどとも感じてしまいました。しかし読み進めていくといずれ日本も、というかもう日本においても格差が進み新自由主義の犠牲者が出ているのかもしれない。186ページにある後者のような民主主義が実現してほしい。新自由主義のもとで戦争に駆り出される民間人は貧困が原因で			

	戦争に関係していくという現実それ自体は恐ろしいが、愛国心やイデオロギーに基づいて戦争に加わっているのではないということを知れてまだ救われた気がする。いったい何のための戦争なのだろうか。			
	全部	200P (240分)		2010/01/07 16:49:44
BLUE BLOOD ☆☆☆☆	日本でも社会間格差がどうとかいわれてますが、これをきっかけにアメリカのことを知っていくとこの題名になるかもしれません。			
	全部	200P (110分)	83－	2009/12/15 12:39:14
Whatever ☆☆☆☆	新書大賞2009。 アメリカの格差社会の足元にスポットを当てたルポ。 金持ちのための医療、最貧層を狙った戦争リクルート、民営化された戦争。 世界一豊かな国の悲惨な現状です。 原因となった社会構造に踏み込んで、わかりやすく説明されました。 報道の支配と過激な市場原理への傾倒、 憲法9条を守り抜いてきた日本も「海の向こうの話」とは言っていられないようです。 国際社会の趨勢に逆える明日はあるのだろうか。			
	全部	200P (200分)	145-188	2009/12/07 23:00:34
ざわ ☆☆☆☆	本当にアメリカは恐ろしい国だと思いました。民営化とか自由とかいう言葉を使っているけど、すべては政府が一部の富裕層が強みを握り、操っている世の中であり、アメリカのどこにも自由はないと思います。 「子どもに物を買うより、一緒に過ごす時間をプレゼントに！」 このビリー牧師の言葉は市場主義の求めすぎによる社会の悪循環を訴えるための深い意味のある言葉かもしれませんし、この本の意図とは逸れるかもしれませんが、私は純粋にこの言葉そのものを心に留めたいと思いました。物だけでは満たされない幸せを大切にしたいと思います。			
	全部	200P (180分)		2009/11/24 23:23:25
ぶりぶり ☆☆☆☆	個人的にアメリカは自由で華やかなイメージがあったが現実には自由であるがゆえに崩れていく社会制度の数々が浮き彫りになった。世界一高い医療費を払えずに破産していく中間層、このようにして貧富の差が広がっていくのかと思った。日本国にも十分関係のある話だと思う。			
	1-143ページ	143P (80分)	63-98ページ	2009/11/09 22:26:29
ぴよ彦 ☆☆☆☆	アメリカの行き過ぎた自由主義・民営化は企業の強欲を増長させ、格差はさらに拡大し、教育や医療をも荒廃させた。アメリカのアイデンティティとも言える「自由」を大半の貧困層が享受できずに生活苦に喘いでる。もはやアメリカは衰退の一途をたどり、いずれ超大国の地位から転落するだろう。 日本は碌に精査もせずアメリカ方式に追従するが、これからもそのスタイルを崩さないのであれば、アメリカと心中することになるだろう。			
	1-207	207P (140分)	64-68	2009/10/28 12:35:36
puzdog ☆☆☆☆	アメリカは恐ろしい意味で「自由」な国だと思った。自由主義が生み出す民営化と自由競争、それによりもたらされる所得格差、貧困層の拡大。強者はますます富み、弱者は次々と廃れる社会。一見光に見える自由という言葉の影をみたような気がした。			
	1-100	100P (100分)		2009/10/27 13:10:13
blue	もうアメリカンドリームなんて言葉は決して言えないような、失意の絶えない今のアメリカ社会を目の当たりにする。著者がジャーナリストである分、かなり批判的に見すぎているのではないかと懸念されるところだが大方事実であろう。あらゆる現象を国家単位や企業単位といった括りとしてだけで知るには全く不十分でそれらがどれほど関与しているかを消費者一人一人がしっかり見定め			

☆☆☆☆	なければならない。行き過ぎた市場原理の怖さを知ると同時に、もはや日本も…と、つい憂いをい だいてしまった。			
	1-206	206P (180分)	特になし	2009/10/25 00:32:03

えむぼま ☆☆☆☆	オバマ大統領が就任してからアメリカの「表」は注目を浴び続けているが、アメリカの「裏」では こんなことが行われているのか！とおもわせる本です。 医療、教育などにより裕福な階級が貧困層を市場原理により搾取しますます貧富の差が開いてしま うという状況は日本にとっても他人事ではないと感じた。			
	1-33,64-174ページ	144P (200分)	83-85	2009/10/13 09:18:27

[TOP](#) 



図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

プロフィール
覧

自己プロフィー
ル

掲示板

やってくれるね、ロシア人！

著者名	亀山哲朗	発行年	2009年
出版社名	NHK出版協会	ページ数	232ページ
値段	1,300円	ISBN	978-414035083
コメント	すごいぞロシア。列車の案内板の番線箇所には「？」マークの紙が貼られてて、列車が到着するたびに、みんな荷物を持って地下通路を走り回らなだっさ、いやほんと（202ページ）。 といった爆笑エピソードのかたわら、収容所の跡へと草踏み分けての自転車行軍など、重たい歴史や多彩な人物との、しみじみとした邂逅もたくさん。カメラマさんはカメラマン。だけど文章も一級品。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
黒鳥 ☆☆☆☆	とある私の先輩。 大学でロシア文学を専攻しているらしい。なんでよりによってロシアなの？？もちろん学科の人数は少なく、ゼミなんて教授の先生と二人きり。おじさんと二人きりなんてお姉さん大丈夫かよ～でもその人はこう言っていました。 「あんたねえ、ロシアほど魅力的な国ないよ」 なんとなく今回そう言ってた意図がつかめたかな……。確かに芸術の話し始めたら、一度はロシア人の話でよね。 なかなか面白い本だと思います。			
	38-41 66-93	24P (30分)		2010/02/13 15:21:06
つきもち ☆☆☆☆	前に読んだ東南アジアとは異なり、ロシアは題名通り不思議な国に感じた。もっと上品な人が多いのかと思ったけど、案外自分中心が強い国みたい。。かわいい少女に顔覗かれて話しかけられちゃったらまいっちゃうな・・・（笑）			
	14-21,82-85,164-167	13P (20分)		2010/02/13 01:19:01
フィクサー ☆☆☆☆	ロシアの異国情緒を表す言葉に「事実小説よりも奇なり」というのがあるそうで、この本を読むとそれがよくわかります。うらやましい。ロシアの女性はすごいかわいいから、しかもそんな言葉があるなら行くしかないよって感じてました。 ずっと同じ調子の文なので、自分も途中飽きてしまったのですが、たいていの人がすんなり読めるような簡単な言葉遣いで、でもとても表現が豊かで、文を書くのがうまい人だなあと思いました。			
	全部	232P (150分)	とくになし	2009/11/30 15:25:25
	大雑把でお喋り好きで思考の中心はいつも自分、でも人間味溢れる、そんなロシア人が描かれてい			

ぴよ彦 ☆☆☆☆	る。 ライトな語り口で読みやすく、なにより作者のそんなロシア人への溺愛っぷりがよく伝わってくる。 また、章末に載せてある写真も、さすがプロのカメラマンだけあって見応えがある。			
	1-142	142P (90分)	42-45	2009/10/28 08:04:51

ぶるー ☆☆☆	作者のたんたんとした語り口が、ロシアの大雑把で寛容な国風をよく表している。 滅多に行く機会のないロシアという国で、作者が写真家として経験したことは、日本に住んでる私 たちには考えられないようなことばかり・・・。 そんな非日常的な国へ行ってみたくなるか・・・は微妙なところ(笑)そんな人柄がどこか憎めない ロシア人の話が盛りだくさん一冊。 ただずっと同じ語り口なので全部読もうとすると少し飽きてしまうかもしれない。			
	ほとんど全部	200P (120分)	パラっと開いたところ	2009/10/20 21:52:25

えむぼま ☆☆☆☆☆	ちょっとつまみ読もうとページを開いたらついつい最後まで読んでしまいました。文章も平易で、 作者のロシアを旅した日記のようになっているのでもとても読みやすいです。 ソ連時代の虐殺の過去など考えさせられる部分もふくまれていて、ロシア人の温かみあふれる描写 も多くふくまれているので、是非ロシアに行ってみたい！と思わず言ってしまう本です。			
	14-245	232P (300分)	126-129	2009/10/19 21:24:37

[TOP](#) ^



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

中流社会を捨てた国

著者名	ポール・トインビー	発行年	2009年
出版社名	東洋経済新報社	ページ数	269ページ
値段	2,000円	ISBN	4-49222299-7
コメント	ハローこちらイギリス。 情勢はよくない。きわめて、よくない。ここでも格差は拡大中、拡大中。 でも、そんななか、就職支援に子育てサポート、こんな新しいトライアルが始まっています。前向きリポートが頼もしい。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
アメフト3号 ☆☆☆☆	「高額所得者の自己認識」というテーマの章だった。「人は、自分よりも多く稼いでいる人も知っているし、稼いでいない人も知っているから、自分の所得は真ん中くらいだと思っている。」という風な事が書いてある1節があり、人は自分を平均化して考える傾向にある。 高額所得者は世間一般の職業（例えば工場労働者とか）の平均年収を全く知らないというのには驚いた！！			
	30-42	13P (20分)	特になし	2010/01/26 15:21:56
えむぼま ☆☆☆☆	富裕層の実態と貧困層の実態が描かれていて、その実態をどうするべきなのか？という提言まで書いてあるので読みごたえのあるほんだった。 富裕層にとって寄付するということは寄付している自分かっこいいという優越感から生まれているものであると思うが、富裕層が競って優越感のために寄付しているという現実には寄付されている人にとっても気分が悪いものであるおもう。			
	全部	269P (400分)	237-273	2010/01/11 23:46:14
くま ☆☆☆	高所得者の低所得者にたいする意識が低いってのはよくわかりました。ホント、私のような貧乏人には想像できない考えしてますよ。 中にはボランティア活動とかに精を出す人もいんでしょうが、大半は低所得者について、無視か努力不足で一蹴してしまうのだろう。近代は平等を掲げて発展してきたように思えて、こんなにも格差が広がっていると、どうしようもない怒りがこみ上げてくる。			
	後半読んでないんですが目次によると、低所得者について書かれてるみたいです。ゆっくり読みたいけど、今読むと吐き気がしてしまうのでこの辺で。私の考えは、利潤は追求してもいいけど、その分配の仕方に問題があるんだろうと。 アダム・スミスの言ってた「賢者」になればいいのかもしれないですね。所得なんてある一定基			

	準超えれば満足するんだから。 うーん、なんか文章が変な気がするが、気にしないでおきます。		
	p71まで	67P (90分)	特になしです 2009/12/08 15:41:49
iwatobi-penguin ☆☆☆☆	イギリスが格差社会であることがとても意外でした。僕も貧困層と上流階級の二つしかない社会には住みたいとは思わないので、日本も格差社会の時代がやってくるといわれていますが、そうならないように祈ります。		
	1-48	48P (40分)	 2009/11/29 22:02:01
ざわ ☆☆☆☆	イギリスの格差社会について、貧困層だけでなく、富裕層の実態や税金の使い方など、多面から細かく知ることができました。こうして、他の国の格差問題について、知ることができると、日本国内の格差問題について、違う見方ができるから、おもしろいです。		
	全部	269P (270分)	 2009/10/13 08:17:00

[TOP](#)へ



図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

プロフィール
覧

自己プロフィール

掲示板

本当の中国を知っていますか？

著者名	山本秀也	発行年	2004年
出版社名	草思社	ページ数	242ページ
値段	1,700円	ISBN	4-794212933
コメント	暗い話が続きます。貧しい農村、環境汚染、エイズ。made in China のタグの向こう側にある重い現実。だけれども、アフリカの話を読むような絶望感とはどこか違って、かの国は、この逆境をきっと克服してゆくに違いないと、読みながら思えてきます。それは登場するかたがたのパワフルさゆえ。何だか新聞記者さんの悲観論につきあって、記者の期待する話を提供しているフシまであったりして。聖徳太子の昔から、ずうっと我が日本の規範となってきた偉大なる隣人の今の、ほんの一部。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間

くらしく ☆☆	今まで散々この手の外国がどうか貧困がどうかという本を避けてきましたが、せっかくの機会ということで読んでみました。 が、まあやはり予想通りというか自分には興味が沸きません。 本当の中国、といわれても大体そんな感じかなあと漠然と捉えていたとおりの中国でした。 よく聞く農業や一人っ子政策の問題も、自分の期待する方向には掘り下げてもらえず、あまりしっくりこない感じです。			
	1-105ページ	105P (120分)		2010/02/15 03:02:28

TD ☆☆☆	アフリカレポートで読んだジンバブエほどではないが、中国でも国民・環境に対して負担を強いている様子が分かった。			
	108－118	10P (10分)	108－118	2010/02/13 22:31:20

iwatobi-penguin ☆	何というか～、読みにくい～。筆者に本当に中国のことを読者に訴えかける気持ちがあるのか疑わしいです。内容は知ってのとおり中国は経済発展しているが、食糧、人口、衛生など多くの問題を抱えているといういたって普通のことの淡々と描かれていました。わざわざこの本を選ぶ必要はないですね。もっとわかりやすく、中国のことをリアルに描写した本はほかにあるはずです。			
	1-242	242P (80分)		2009/12/08 05:54:00

産経新聞の海外特派員として約10年の取材経験をもとに、現代中国に横たわる問題に深く切り込んだ一冊。秘密主義を操る権威政治の存在を諸問題の根幹に据え、地方格差、農業問題、情報操作、汚職問題、迷信邪教・・・次から次へと悲惨な現状を伝える。「五千年」を豪語する悠久の歴史によって育まれてきた彼らの民族性は、時に世界標準とはおよそ乖離していると思われ、理解に苦				
--	--	--	--	--

Whatever ☆☆☆☆	しむ。筆者の深い洞察は、ここ僅か数十年の中国の繁栄と成長に伴うはずの「変化」が、本質的なものではないことを教える。対比されることの多いインドとの差は、立ち向かうべき問題の本質を、中国自身がまだ認識しきれていない、ということではないかと思った。 とはいえ、ここまで書いておいてなんだけれども、なじみのない固有名詞、データ引用が多くて、難しかった。近代中国のキーワードは一通り抑えてないと読みにくいと思う。僕は相当厳しかった。しかし盲目的な反中本ではないし、優れたルポだと思った。			
	全部	242P (300分)	138～164	2009/12/01 00:29:22

えむぼま ☆☆☆	全体的にかための文章で単調なので読みにくいし、興味がある所でないと面白く読めないと思います。 経済成長している中国であるが、北京や上海では大気汚染、農村部では感染症、さらには水不足や残留農薬問題の隠蔽などさまざまな問題をかかえていることを感じさせられた。			
	72-80,107-172	75P (100分)	115-119	2009/10/13 10:14:42

[TOP](#) 